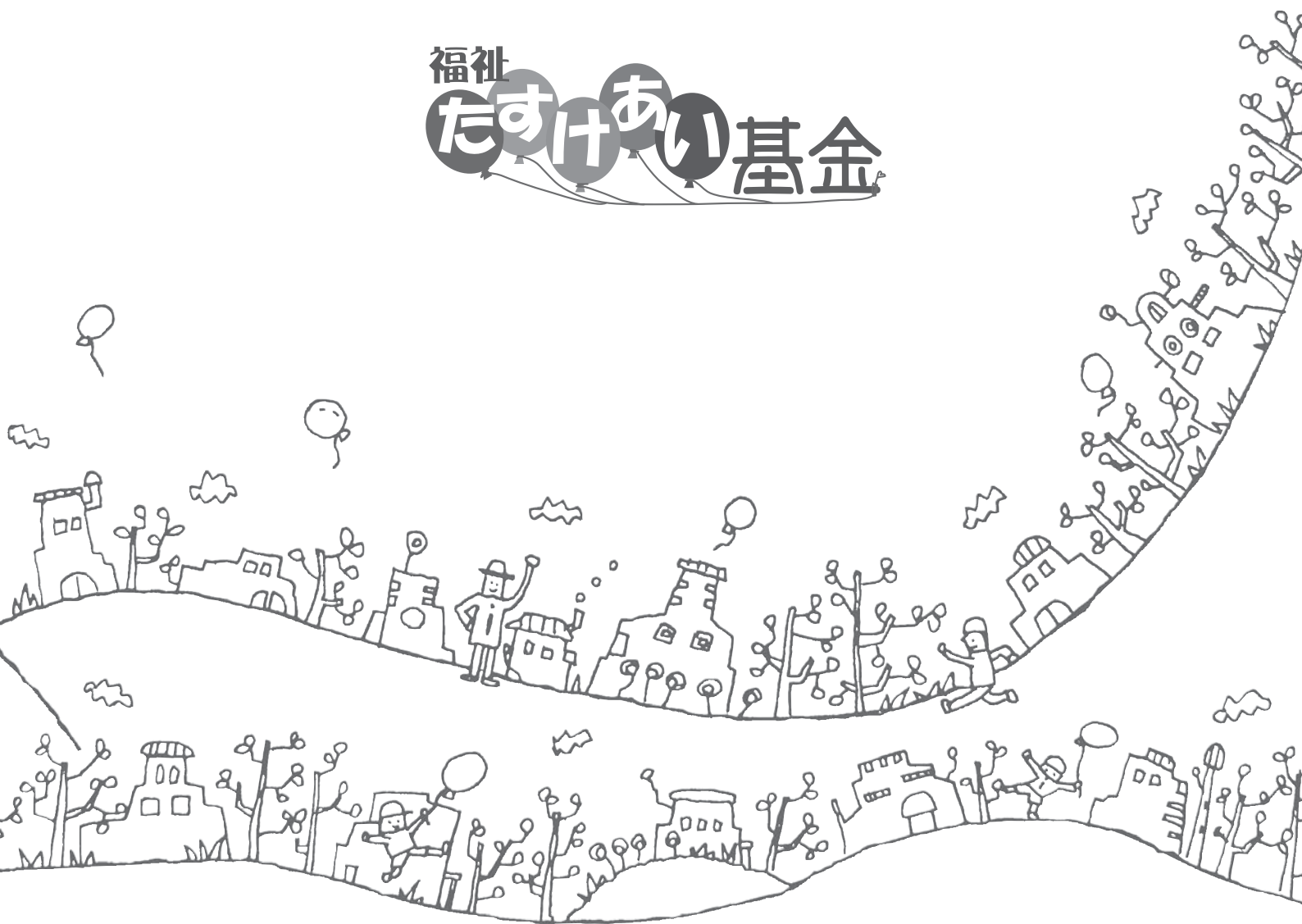


福祉たすけあい基金BOOK

2期・3期の助成団体紹介

福祉
たすけあい基金



公益財団法人

かながわ

生き活き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund

目次

公益財団法人 かながわ生き活き市民基金は…	3
福祉たすけあい基金とは	4
過去の助成団体…第 1 期福祉たすけあい基金助成団体	5
NPO 法人 Music of Mind	6
NPO 法人「CLIP・あこーん」電話相談室	7
NPO 法人大和子どもミニデイサービス W.Co もこもこ	8
Charkhafe チャルカフェ	9
おしゃべリッチ∞	10
認定 NPO 法人エンパワメントかながわ	11
就学前親子のためのふれあいサロン「いぬぞう」	12
湘南小麦の会	13
アートが子どもたちを訪ねて来る会	14
NPO 法人アール・ド・ヴィーヴル	15
神奈川わかものシンクタンク	16
NPO 法人楽竹会	17
一般財団法人神奈川県母子寡婦福祉連絡協議会	18
NPO 法人たすけあいあさひ	19
NPO 法人たすけあい・ゆりの木	20
NPO 法人 W.Co ケアびーくる	21
W.Co ゴジママ	22
NPO 法人ふじさわ団塊塾	23
NPO 法人まんま	24
NPO 法人ドリームエナジープロジェクト	25
認定 NPO 法人かながわ福祉移動サービスネットワーク	26
NPO 法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ	27

* NPO 法人ひまわりの会(2 期)は諸事情により掲載しておりません。



公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は・・・

◆成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合（1971年創立）は、90年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク（「女性・市民コミュニティバンク」の前身）をつくり、1998年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は2003年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の10年間の助成活動の実践を経て、2013年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団法人かながわ生き生き市民基金」を設立しました。

◆ミッション

<投資して利潤を稼ぐことが経済>という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくるのが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、子どもや障がいを持つ人が生きにくい社会になっています。

かながわ生き生き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくのお金などの社会資源を拠出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き生き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を通じた市民活動・事業への支援です。現在3つの助成プログラムを行っています。

常設型で年2回助成を行っている福祉たすけあい基金は、意思ある生活クラブ組合員1万1千人の月100円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラムエラベルは、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラムは寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業以外には、講座事業、相談事業などを今後行う予定です。



福祉たすけあい基金とは

かながわ生き生き市民基金の助成事業の一つに留まらず、かながわ生き生き市民基金を支える基金です。福祉は人々の生活そのものといってよく、高齢者から若者・子ども、外国人、障がい者など、切り口によって活動テーマは様々で、複数の要素を持っています。

福祉たすけあい基金の特徴

98%以上に当たる寄付が生活クラブ組合員1万1千人の毎月100円の寄付で寄せられています。このことは福祉たすけあい基金に強みであり、弱みであると言えます。顔の見えるおおぜいの支持者をさらに広げつつ、ミッションを伝え地域の寄付者を広げていかなければならないと考えています。

第1期～第3期の実績

第1期	助成2014年4月	申請34団体 約2400万円	助成9団体 451万4100円
第2期	助成2015年2月	申請17団体 約700万円	助成12団体 394万4950円
第3期	助成2015年5月	申請34団体 約2400万円	助成11団体 382万2000円

申請事業活動の特徴

- 障がい児/者16件 ●子育て/保育/学童11件 ●サロン/親子ひろば10件 ●高齢者10件
- 地域つながり8件 ●若者5件 ●外国人4件 ●移動4件 ●食3件 ●農3件 ●相談3件
- 防災2件 ●困窮2件 ●その他2件 ●複数回申請2

女性問題をテーマとする申請はありませんが、活動の主体としては多くの参加があり、申請者は男性33人、女性50人、複数回申請それぞれ1人と女性が6割を占めています。

100万円という助成上限金額から設備費や、他の基金では助成項目から外されることが多い人件費への申請が目立ちます。しかし恒常的に必要な人件費を助成で賄うことは事業持続に課題となることもあり、厳正に審査を行っています。

市民活動の先駆性・有効性・参加性・持続性、そして社会を変える意気込みに期待

選考に当たっては、事業・活動の先駆性や有効性ととともに、広く地域の人々や団体と連携し、時間・知恵・労力・お金などを拠出しあい、市民が主体となり地域の課題を解決する参加性が重視されます。また市民事業・活動を生み出し、育成し、事業拡大するだけでなく、市民の実践を根拠にアドボカシー活動を行い、社会を変えていく志が広がることが期待されています。

選考委員（敬称略）

- | | |
|-------|---------------------------|
| 吉村 恭二 | 神奈川県明るい選挙推進協議会 会長 |
| 小山紳一郎 | （公財）ラボ国際交流センター 理事 |
| 田中 夏子 | 研究者 （前）都留文科大学 教授 |
| 米田佐知子 | （特非）子どもの未来サポートオフィス 代表 |
| 奥山千鶴子 | （特非）ビーのびーの 理事長 |
| 高城 芳之 | 横浜市指定NPO法人アクションポート横浜 事務局長 |
| 中村秀一郎 | （株）浜食 代表取締役 |
| 河村 尚子 | 市民事業創出支援室 室長 |
| 城田 喜子 | 生活クラブ生協 副理事長 |
| 宮津 裕香 | 横浜北生活クラブ生協 理事 |



過去の助成団体・第1期福祉たすけあい基金助成団体

名称	活動地域	事業内容	助成金額
NPO 法人グランマ	横浜市西区	障がいにより育て方が困難で育児負担が大きい家庭に対し、預かり支援、家族の育児負担軽減のための支援、同じ悩みを共有できる仲間との出会いのばサービスを提供する。放課後デイサービスは、地域の奉仕活動やボランティアをして地域に認められることで自信を持ち、自立に繋げる。	設備費、 備品購入費 800,000 円
子育て支援 W.Co mon ami	横浜市港北区	母親が子どもと一緒にほっとできる空間、ここにすれば誰かに会え話が出来る居場所としての親子ひろば「わっとホーム」の運営。	人件費、 備品購入費 350,000 円
街の家族実行委員会	横浜市青葉区	子どもたちが身近にいる大家族的な雰囲気地域でシニアとママとで「地域を繋ぐ保存食づくり」、街の大工さんとすすめる「街の家族」の台所裏部屋の貯蔵デポの整備等を行い今にあった姿の伝承活動とシステムを創る。	人件費・ 講師謝礼等 420,000 円
NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ協会	神奈川県内	障がい者、社会経験の少ない若者の就労支援・社会参加の場づくりとして運営する「コミュニティキッチンぼらん」において、一緒に調理しながら教えるジョブコーチの設置。	ジョブコーチ 費用一部 999,600 円
NPO 法人ぶかぶか	横浜市緑区	障がいのある人たちと地域の人たちみんな一緒になって、月 1 回演劇ワークショップを行い、半年後にホールを借りて発表会を行う。	講師料 会場費等 493,500 円
大倉山ドキュメンタリー映画祭実行委員会	横浜市港北区	映画祭で出会った、映画のモデルとなった他地域の社会福祉法人、NPO、作業所などがドキュメンタリーカフェの運営や作品展、絵画展を行なうほか、大倉山商店街との連携等、ドキュメンタリー映画祭開催を通じた地域交流、地域活性を行う。	保育料、謝礼、 広報費、 フィルムレンタル料の一部 165,000 円
ひまわりの会	横浜市	外国人の子どもたちの学習サポートや言語の壁による日本の学校生活の手伝い、保護者が日本の学校教育を理解し子どもの日本の学校生活をサポートできるよう外国人保護者へのサポートを行う相談事業等を行う。	相談、学費サポートの諸謝金、 研修費 600,000 円
大場町みんなのいえ 《わたせハウス》 W.Co 準備会	横浜市青葉区	高齢者、子ども、若者など、多様な世代が交流できる場、地域の働き場である大場町みんなのいえ《わたせハウス》での昼食、喫茶の提供、親子ひろば、ケアマネージャー、保育士による福祉相談等を行うサロン＆街の台所の運営。	人件費 研修費 500,000 円
ReBit (リビット)	東京、神奈川、 九州など	LGBT(同性愛者や性同一性障害などの性的マイノリティ)の子どもも安心して保健室で相談できる場とするための必要な資材をひとつにまとめたキットを作成し、神奈川県内の小学校～高校の保健室への配布及びその検討をおこなう検討委員会活動。	委員会 会議室代 186,000 円



団体紹介

設立年月

2012年9月

団体の目的・活動内容

知的障がい者の就労支援。その人に合った作業を見出し、音楽活動を就労の場として可能性を追求する。コンサートの企画・オリジナルCDの製作など。

取り組んでいる活動の思い

知的障がい者の社会参加や地域活動が乏しい、地域との関係が希薄という2つの課題に取り組んでいる。

データにはあらわれにくい、知的障がい者が学校というコミュニティから出た後急速に社会から孤立することが少なくない。就職後も職場での理解が浅く、作業所に通っていたが、仕事が合わず、施設を転々としたあげく、自宅に引きこもる障がい者を数多く見てきた。

地域の人も「よくわからないから怖い」といったことも耳にする。差別され社会から隔離されてきた歴史があり、家族だけですべてを抱え込んでいることが少なくない。

音楽を就労とすることで楽しみながらも仕事をする意識を持つことができる。コンサートやライブの回数を増やし、地域との接点を広げ理解を広げ、障がい者も明るく生き生きと暮らしていくきっかけとしたい。

活動歴

2012年～セルフ湘南レストラン・カフェロマーノや学校・福祉施設でのコンサート・ライブ年間平均6回

団体情報

住所 藤沢市羽鳥 1-3-19

TEL 0466-86-7857

Mail music-of-mind@kir.biglobe.ne.jp

❀ 助成した事業・活動

Music of Mind ～心からの音楽を広げる～

❀ 内容

コミュニティアートを通じて障がい者自身のエンパワーメントと、地域の人々の障がい者への理解を促進する活動に共感し、歌・ダンス・楽器指導、CD製作にかかわる会場費、楽器購入費、音響機材費、移動費などを助成します。

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は福祉助け合い基金への助成を賜りまして、誠にありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。利用者たちが音楽活動を通して日々笑顔で前進出来ますようお志を使わせていただく所存でございます。また、コンサート・ライブなどの活動を通じて地域との交流も深めてまいります。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



GREEN あんどふえありーないんコンサート

NPO 法人「CLIP・あこーん」電話相談室

横浜市

助成金額
558,200円

理事長 鶴田 恵美子

団体紹介

設立年月

1999年11月

団体の目的・活動内容

生きづらくなっている人達とかかわりを持ち、心をつなぐ・つながりを持つことを目的に、公共の相談では話しにくい内容に対しても寄り添いつつ相談に応じていく無料の電話相談。相談員のレベルアップのための学習会・事例検討会も実施。

取り組んでいる活動の思い

電話相談では息苦しさを訴える人がいかに多いかに気づかされる。夫が他界、子どもは独立、友人と呼べる人がいない。精神疾患があると家族からも孤立する。警察に相談するほどではないと思う夫からのDV、姑からの叱責など公的な相談では門前払いとなることが多い。民間の相談が見つかりにくいのと、信頼できるかどうか不安がある。

そういう人々と繋り、心をつなぎ合っていきたいと15年前からボランティアの電話相談を開設した。

活動歴

毎週月・火・水・金曜日の

10:00～17:00

年間合計176日電話相談事業を実施

月平均41件の相談、年間で494件

カウンセリング学習会 月1回全10回

第2土曜日午前9時30分から12時30分

事例検討会 年5回

団体情報

住所 横浜市西区平沼1-1-12-403

TEL 045-317-7534

Mail clip_acorn@yahoo.co.jp

HP <http://clip-acorn.com/>

❀ 助成した事業・活動

心を繋ぎ、心をつなぐボランティア電話相談事業の継続

❀ 内容

メンバーの交代、家賃の値上がり・助成金の収入切れに直面し、長年継続してきたインパクトのある事業継続が困難になっています。長年の事業活動を見直し、再出発するために、事業基盤強化を条件とし、家賃の一部を支援します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

毎年、カウンセリング学習会の参加者数がわかるまで、活動資金が足りるのかどうか不確定な状態でした。

昨年、WAM（独立行政法人福祉医療機構）から助成を受けることができ、相談室の設備の充実を実行し、さらに相談員へ交通費以外の相談料をわずかでも支払うことができました。

今年度は、かながわ生き活き市民基金から福祉たすけあい助成金をいただけたので、資金不足の心配をせずに活動ができます。

さらに嬉しいことに、今年度はカウンセリング学習会への参加者も30人を超え、私たちの活動の基礎となる収入が確保されました。

頂いたお金で、相談者に寄り添える活動を続けていきたいと思っています。



電話相談は、基本的には、独りでを行っています。受けた相談については、相談記録と日誌に記しておきます。

相談員の勉強の場として、月1回3時間、カウンセリング学習会を開催しています。学習会は一般の方々にも参加して頂いています。



団体紹介

設立年月

2002年3月

団体の目的・活動内容

生活者・市民の視点から、子育て中の親子らが安心して暮らせるように、地域に必要とされている保育や子育て支援で、子どもたちが健やかに育つまちづくりを目指す。
乳幼児の月極保育・一時預かり、親子ひろばなど

取り組んでいる活動の思い

大和市でも何百の数の待機児が今もあふれている。働く女性が育児休業制度を活用し出産・育児に向かっても、育児休暇が明けるところに子どもを受け入れてくれる保育所がない、また見つけ出すことが簡単ではないことがわかり、困っている姿を見てきた。
急ピッチで株式会社運営・社会福祉法人運営の大規模保育園が増えているが、長くこの地で保育にかかわってきた私たちは、「様々な理由に対応した、安心して預けられる場所」が必要と思い、市民の力で生み出した場所をこれからも安定して残していきたいと思っている。

活動歴

2004年から認可外保育所を経営し、大和市の認定保育施設として助成を受け活動してきた。2014年で認定保育施設への助成が終わることになり、また認定保育施設の認可保育所移行が計画され、私たちも移行を決定。しかし現施設では認可保育所として国の求める基準に合わないため移転が必要となったが、2015年4月開園のタイミングに合わせるとなると、施設改修の補助金(2500万の3/4)の活用ができず、全額自己資金で開園準備を行った。

団体情報

住所 大和市中央林間4-21-3

リュミエール中央林間

TEL 046-277-2480

Mail hoiku-mokomoko@jcom.zaq.ne.jp

❀ 助成した事業・活動

4月からの子ども子育て新法施行にあたり、これまでの実績が社会的に認知され、地域ニーズに応えた認可保育所としての新たなチャレンジ。

❀ 内容

施設の拡充で重要度は高く、新規事業にあたってほとんど自己資金で賄われており、申請のあった幼児用イス12脚、幼児用テーブル4台を助成とさせていただきます。

助成を受けて…の思い・メッセージ

3年ほど前から新しい子ども子育て支援制度が叫ばれはじめ、その後政権交代しながら子ども子育て制度の新設は継続したが、4月の開所を済ませた今でも補助金等、細かいことはまだまだはっきりとせず、長く不安定な状態に置かれている。定員24名の認可外保育施設で13年、運営してきた私たちが、ここ数年の政治と社会の変化の波に飲み込まれながら、認可保育所への移行の準備を考えていく時の手元の資金の心細い時に、班購入している私のところに福祉たすけあい基金のチラシが届いた。大和コモンスの運営委員からも声をかけてもらった。助成の知らせは、窮している時に灯されたあかりだった。助成金で購入した机と椅子は木の手触りがとても優しい。





チャルカフェ

代表 内田 香波

小田原市

助成金額
368,000円

団体紹介

設立年月

2014年10月

団体の目的・活動内容

フェアトレード品を扱い、地域経済のフェアトレードを実現する
子育て世代が集い、子どもとの暮らしを豊かにする地域社会づくりをめざす
地域環境保護を大切にする市民のための居場所 等

フェアトレード品・地域の物産の販売、カフェ、イベント、部屋貸し、図書館

取り組んでいる活動の思い

国府津地域に不足する子育て世代の居場所をつくり子育てしやすいまちづくりへ同じ地域に暮らす親子の交流場をつくり、子育てへの不安解消・仲間づくり・リフレッシュする子育て世代への応援
チャルカフェのスタッフは、地球上のあらゆるものに優しく、自分らしいスタイルにこだわった子育ての実践者。効率優先の暮らしからスローライフへと価値観の転換を促すためのロールモデルとしての役割を果たす。

活動歴

2014年10月チャルカフェ開業
2015年1月通常営業開始 キッズスペース開設整備
2015年4月キッズスペース開設

団体情報

住所 小田原市国府津3-14-3
TEL 0465-20-3550
Mail info@charkhafe.com

助成した事業・活動

親子が気軽に利用できるように、チャルカフェ内のキッズスペースの整備・運営

内容

キッズスペース整備(電気工事・本箱製作・座卓製作、クッション製作・ラグ・木製食器等)、イベント講師料に助成します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

資金はないけれど、今この社会の中で、この場所や活動を守って続けていかなければ という思いで お店をはじめました。こういった形で支援を頂けたこと、とても助かりました。お金のことだけではなく とても心強かったです。

国に頼るのではなく 市民や地域が自らの手で暮らしをつくっていくために、とても重要でありがたいことです。応援してください。さったぶん 社会や未来に対して何倍にも還していけるよう、がんばります。



キッズコーナーを活用して、糸紡ぎワークショップ



イベント講師料にて開催の濡らし絵教室



キッズスペースを使っのベビーマッサージ

団体紹介

設立年月

2012年8月

団体の目的・活動内容

- 市民自らが活動の主人公になる仕組みづくりを目指し、特に子育てママたちが安心して子どもを産み育て暮らせる地域づくり。
- 子育てママの居場所づくり(親子のひろば)の運営。参加者から主体者を育てる
- 地域課題解決のフォーラムなどの開催

取り組んでいる活動の思い

子育ては日々子どもに向き合う成長の喜び、充実感の一方、孤独やあふれる情報に戸惑う日々でもある。

横須賀市内に親子で過ごすひろばは多くあるが、親の気づきを促す場としては設定されておらず、社会の主人公と気づききっかけ・学び・参加する仕組みとなっていきたい。

活動歴

毎月2~3回親子ひろば開催 5~8組参加

年1回 子育てフォーラム開催 10~15組学習会適宜

親子ひろばでは、「子育てママのためのミニミニ講座」実施

横須賀市子育て支援担当部署との連携を模索

市民主催子育てまつりへの参加

団体情報

代表者

住所 横須賀市馬堀海岸2丁目

TEL 046-842-1898

おしゃべりっち∞アドレス

Mail asobo_yomekan@yahoo.co.jp

HP <http://yumekan.jimdo.com/>

Facebook もご覧ください。

助成した事業・活動

地域で孤立しがちな子育て中の親にとってニーズの高い親子ひろば(おしゃべりっち∞)の運営

内容

親子ひろば開催の有料会場費を支援します。

助成をうけて…の思い・メッセージ

私たちが開催している親子のひろばには、少しずつ参加者が増え、その時間に行う「子育てママのためのミニミニ講座」を通して、ママ達はいろいろな体験や学習を楽しみ、少しずつ顔がつながり、輪が広がっています。

ママの元気は子どもの元気。

ネット上で簡単便利につながれる昨今ですが、子育てに必要なのは「人と人が直接会って話し、時間を過ごすことで生まれるコミュニケーション」だと思います。

子育てに奮闘中のママと子どもの出会いやつながりが生まれるきっかけとなるような居場所をつくりたいという思いで活動を始めました。おおぜいの気持ちがこもったこのお金を有効に使い、今後も緩やかに、楽しく活動を続けていきたいと思っています。



認定NPO 法人エンパワメントかながわ

横浜市

助成金額
421,220円

理事長 阿部 真紀

団体紹介

設立年月

2004年9月NPO法人取得
2014年認定NPO法人取得

団体の目的・活動内容

すべての子どもとおとなの人権意識を高め、暴力のない社会の実現を目指す。
CAP(子どもへの暴力防止)プログラムを柱としそれぞれの対象にあった暴力防止プログラムの開発提供。

取り組んでいる活動の思い

未来を担う子どもたちが、虐待やいじめ、誘拐、性暴力など様々な暴力にさらされているのに、有力な手段が見出されていない。児童虐待防止法・いじめ防止対策推進法が施行されているが、未然に防ぐ観点からの対策は遅れている。
また6人に一人が貧困という状況も暴力にあいやすい状況をつくっている。
子どもたち自身が「自分自身は大切な存在であること(人権)を知り、暴力に対し「いや」といえる、逃げたい、おとなに相談することを学ぶ機会が重要で、成長後のDVや自殺の防止にもつながる。

活動歴

活動例(2014年度)

年間ワークショップ

- 小学生プログラム
子ども向け164回
おとな向け34回
- 中学生プログラム
子ども向け6回
- 就学前プログラム
おとな向け1回
子ども向け4回

団体情報

住所 横浜市神奈川区鶴屋町2-9-22
日興パレス横浜701
TEL 045-323-1818
Mail
kanagawa-cap-miracle@isis.ocn.ne.jp

❀ 助成した事業・活動

虐待やいじめ、誘拐など子どもへの暴力を防止するための新しい仕組みづくりプロジェクト

- ①寄付によるCAP提供の仕組み「1万人の子どもにCAPを届けるキャンペーン」を成功させるPJ
- ②次世代育成のために学生がかかわる仕組みづくりPJ

❀ 内容

講師謝金を行う講演会講師謝金、ボランティアの交通費・研修参加費を支援します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

未来を担う子どもたちに、一人ひとりがとっても大切な存在であること、いじめや虐待にNOと言っていいことを伝えたい!だから、一人でも多くの子どもたちにCAPを届けたい!そんな思いの私たちは、寄付によるCAP提供の仕組みづくりに挑戦を始めました。また、これからも末永くこの活動を続けていくために、学生がかかわる仕組みづくりも始めます。

神奈川県の子どもたちのために、プロジェクトへの助成に感謝します。ぜひ応援してください。



ワークショップの様子



子どもたちの感想

就学前親子のためのふれあいサロン「いぬぞう」

川崎市

助成金額
109,214円

代表 那須野 晶

団体紹介

設立年月

2013年10月

団体の目的・活動内容

就学前乳幼児をもつ住民の急増地域で、就学や子育てへの不安に耳を傾け、地域コミュニティの情報を提供する。地域コミュニティでのヨコやナナメの関係づくりを手助け、ぬくもりのある地域コミュニティにしていきたい。

公立小学校内の「ふる里ふれあい館」や地域開放共用施設を活用し、就学前乳幼児のいる家庭むけの「ふれあいサロン」を月1～2回開催。

取り組んでいる活動の思い

7、8年前からの犬蔵2丁目の急激な宅地開発以来、旧来のコミュニティが新しい住民パワーを吸収し、新旧含めたコミュニティメンバーのエンパワーメントを図っていくことが課題となっている。

就学という未就学児のいるすべての家庭が必ず通過する一大事から、小学校施設の活用が地域のコモンズ(共有地)となる可能性は大きい。学校内施設を活用した「ふれあいサロン」の開設を通して、コミュニティ情報・学校情報・子育て情報の流通を促進し、地域コミュニティへの親しみを促していきたい。

地域のおじいちゃん・おばあちゃん、おじちゃん・お姉ちゃんたちが気軽に継続的に立ち寄れる企画を考えたい。

活動歴

月1、2回のふれあいサロンの開催

団体情報

住所 川崎市宮前区犬蔵1-3-1

犬蔵小学校内「ふる里ふれあい館」

TEL 044-976-1820

Mail shou@rio.odn.ne.jp

❀ 助成した事業・活動

地域の新・旧住民をまきこんだ就学前親子のための「ふれあいサロン」の運営

❀ 内容

保育用備品、企画交流準備費、チラシ製作費用等に助成します。

助成をうけて…の思い・メッセージ

助成が認められてほんとうにうれしいです。

もう少しお金があれば、…こんなこともできるあんなこともできるなあと、打ち合わせをするたびにみんなで顔を見合わせていました。乳幼児を安心して連れて来れる環境にしたいね、地域のかたのいろいろな特技や経験を活かしたいけど準備の工面がむずかしいね、などと話し合っていました。

企画のときに、あれこれ考えるはばができたというか、気持ち的にもゆとりが生まれてきました。これから、いろいろなかたに声をかけて、ヨコやナナメのかかわりをつなげていきたいと思います。



新1年生になったばかりの子どものお母さん・お父さんを迎えて。学校の先生にはちょっと聞けないような質問も…



まもなく1年生になる子どもたちに読み聞かせ。ママたちは校内の見学ツアーへ。

湘南小麦の会

代表者 中川 久美子

茅ヶ崎市

助成金額
150,000円

団体紹介

設立年月

2013年4月

団体の目的・活動内容

小麦の栽培・収穫・加工・消費という農的活動を通して、認知症・障がい児者のケア者や当事者との交流の機会をつくり、暮らしに楽しさと活力を創出する。

福祉的なケアの領域と自然に対するケアの領域を融合し、農的活動を広くケアという営みと捉え、ケアを地域の人々と楽しく行うことができるコミュニティづくりをめざす。

取り組んでいる活動の思い

少子高齢社会が本格化する中で、自宅で認知症の人や障がい児・者のケアをする人が増えている。介護に追われている人達も当事者も人とのつながりが希薄となり、孤立しがち。

人とのつながりをつくり楽しさを自ら作ることはなかなか困難だが、農的活動への参加を呼び掛けることでその機会を作り出すことができる。

当事者もケアする人も、種撒き、収穫、など農的活動の作業をできる範囲で一緒に行うことで、自然の恵みや厳しさを感じとり、さらには脱穀、製粉の作業を行い、調理し食することで楽しみを分かち合うことができる。とくに、食事会での交流はつながりの第1歩となる。植物へのケアと人へのケアには共通点があり、人や植物に寄り添うケアという営みは、少子高齢社会のコミュニティの基調となる。ケアをコミュニティで楽しく皆で担うことを可能とするために農ある暮らしとケアの取り組みをつなぎ、拡げていくことが有効と考える。

活動歴

家族の会・当事者と小麦の会の交流をめざし、6m×3mの農地を借り、小麦の栽培、有機野菜の栽培にチャレンジ。

団体情報

住所 茅ヶ崎市海岸1-2-7-405

TEL 0467-82-1880

Mail kuminaka470821@yahoo.co.jp

❀ 助成した事業・活動

手作り小麦で元気を分け合う交流会の開催

❀ 内容

農とケアを結びつける活動は各地にあります。小麦に徹することで作物や栽培活動へのコミットメントが強まることを踏まえ、小麦を脱穀し、製粉するための器材、小麦栽培の研修費、交流会の材料費に助成します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

小麦の会は、まだ、スタートしたばかりの小さな活動です。小さい畑で小麦を栽培し、脱穀、製粉も手作業で行い少量の小麦粉をつくり、うどんやピザを作ったりして楽しんでいます。会のメンバーは認知症や障がい者の家族会を運営していますが、このような楽しみを当事者や家族と分かちあうことができれば、孤立しがちな暮らしがもっと豊かになることを実感してきました。

今回、助成金をいただいたことで、製粉の作業が飛躍的にはかどり、交流会を行うことができます。若年認知症の当事者とその家族、支援者の方たちと、まずは手作り小麦でピザづくりをして、食事会を開催することからスタートします。



認知症家族会の活動



おしゃべり会とさくらんぼ採り



小麦の1年

アートが子どもたちを訪ねて来る会

代表 露木 友子

横浜市

助成金額
160,000円

団体紹介

設立年月

2014年3月

団体の目的・活動内容

児童福祉施設や里親家庭、フォスターケアの中で暮らす子どもたちの育成の一助となる。アートを通して再認識した「自分」を分かち合う場を作る。

- アートワークショップの開催
- ワークショップのボランティアスタッフ育成

取り組んでいる活動の思い

本団体は、児童福祉施設で暮らす子どもたちと関わりのある仕事をしている大人を中心に設立されました。

それぞれの事情で、元々の家ではなく、児童福祉施設や里親家庭、フォスターケアの中で暮らす子どもたちがいます。私たちはその仕事をするうちに、子どもたちにとって【生活のいつもの感じとちょっと違うところで自分を十分に表現すること】の大切さを感じるようになりました。また、表現をしたいけれども、自分にぴったりの表現方法が手近に見当たらずに困っている子どもたちもいるように思うようにも…。

そのような子どもたちは、私たちの仕事場だけでなく、神奈川県内を含め、あちらこちらにいるのではないのでしょうか。

しかし一方で、それぞれの抱えた事情により、外で伸び伸び活動することが苦手だったり、心の健康度が高い子どもたちと一緒にワイワイガヤガヤ活動することが苦手だったりする子もいるように見受けられます。そこで私たちは、子どもたちの生活エリアの近くまでアートの方が「訪ねていく」活動をしたいと考えています。

活動歴

2014年●横浜市児童家庭支援センターでのアート ワークショップの協力

2015年●神奈川県里親会と共催でアートワークショップを開催

団体情報

Mail yukidewdrop@gmail.com

facebook

www.facebook.com/artisvisiting

助成した事業・活動

フォスターケアの中で暮らす子どもたちを訪ねるアートプログラム

内容

プレイバック・シアターワークショップ(分かち合いの即興劇)
パステルシャインアートワークショップ 映画作りワークショップ などの講師料、物品購入の一部に助成します。

助成をうけて…の思い・メッセージ

まだ設立したての本団体への助成。感謝の気持ちでいっぱいです。今年度はさっそく4月に、里親子のみなさんが対象のワークショップを開催しました。このワークショップも最初、関係者の方々からは「座って創作なんてとてもできないと思う」など不安の声も頂きました。ですが、蓋を開けてみると、途中で飽きたりもしながら2時間の創作、全体でのシェアリングも行うことができました。子どもたちは大人の想像よりも意外とできる力を持っているようです。まずは、子どもたちの養育者の方々に、安心してお話させて頂ける団体を目指します。



パステルシャインアート



「映画つくります」



プレイバック・シアター

NPO 法人アール・ド・ヴィーヴル

理事長 萩原 美由紀

小田原市

助成金額
800,000円

団体紹介

設立年月

2013年8月

団体の目的・活動内容

知的障がい児・者と家族に芸術を中心とした活動の場を提供し、地域とのかかわりの中で社会的自立と生活の質の向上をめざし、障がいがあっても自分で選択できる人生を送るための支援を行う。

取り組んでいる活動の思い

既存の障害福祉サービス事業所では下請け作業や清掃など単純作業に従事することの多い現実を受けて、障がいのある方ひとりひとりの特性を生かし、個性を輝かせる仕事を生むための仕事場を作りたいと、知的障がい者の保護者たちが中心となりNPO法人を立ち上げた。アートディレクターを中心に、彼らの新たな可能性を引き出すために様々な体験の場を提供している。現在、障がいのある人たちが自分らしく生きることを追求できる小田原初のアート施設を作ることを目指している。

活動歴

知的障がい児者と保護者を対象に、アート・織り・英語・ヨガ・料理・陶芸などの創作活動の場・ワークショップ(WS)を毎月8～10日間定期開催している。そこで生まれた作品や活動を紹介する展覧会は今年度で3回目となる。美術鑑賞や宿泊体験など会員向けのイベントの他、シンポジウム・ライブペイント、映画上映会など、地域の方にもその意義や豊かさに関心いただけるような活動も積極的に行っている。

団体情報

住所 小田原市栄町 1-18-29

TEL 0465-24-3188

Mail info@artdevivre-odawara.jp

HP <http://art-de-vivre123.blogspot.jp>

❀ 助成した事業・活動

障害福祉サービス事業所アール・ド・ヴィーヴルの設立に関する事業(就労継続B型及び生活介護など)

❀ 内容

設備工事(防災・非難経路の確保・キッチン増設)など拠点づくりのためのスタートアップ資金として助成します。

助成をうけて…の思い・メッセージ

NPO 設立当初からのミッションは、地域に住む障がいのある人たちが自分らしく生きることを追求し、仕事に繋げる事業所を設立することです。

この2年間、様々なご縁をいただき、徐々に地域へ浸透しつつあります。今回の助成を受けて、その実現が目の前に来ているのを感じています。嬉しく思うと同時にいよいよ夢の実現に、身の引き締まる思いが致します。御社の大切な資金を私共のNPOにご支援いただけることに心より感謝を申し上げます。



織りWS



料理ラボ

ライブアート

神奈川わかものシンクタンク

代表理事 福本 壘 相模原市

助成金額
286,686円

団体紹介

設立年月

2011年12月

団体の目的・活動内容

わかものが持つ本業、専門分野、趣味等を地域のニーズと結びつけることで、わかものによる自発的な地域活動・まちづくりを促すことを目的に取り組んでいる。

取り組んでいる活動の思い

災害時において、地域の自助・共助が機能すれば多くの命助けられることは自明である。しかし、自力で避難できない方を助けられる世代の多くは地域外に働きに出るなど地域に不在であることが多い。そのため、地域にいつもいて身体能力が高く、判断能力がある主体として「中学生」が挙げられる。中学生が地域防災に参加することで地域の自助・共助機能の効用が底上げされると考えられる。しかし、中学生が自らの命を守ることを前提とし、状況の正確な把握、適切な行動を通して、地域の互助・共助となる力を身に着けるための方法がない。そのため、地域を題材とした防災に関する教材や活用方法・参加の仕組みが必要である。本事業はその一歩として、地域の人々による身のまわりの危険な話を束ねて本にすることで「地域で実際に起こった危険な話」から上記主旨を学べる教材を開発し、中学生の副読本として位置付け活用していく取り組みを行う。

活動歴

わかもの交流サロン「ゆるりんく」(17回)
巨大災害時に生き残る若者を増やす「防災サバイバル勉強会」(3回)
トランプで遊びながら防災を考える「防災トランプのはじめて教室」(43回) 他

団体情報

住所 相模原市中央区相模原2-13-2
服部相模原ビル 7F
TEL 090-5996-8670
(代表 福本の携帯)
Mail info@futakoburakuda.org
URL: http://futakoburakuda.org

助成した事業・活動

みんなで楽しく「相模原市の防災副読本」をつくり活用しよう！

内容

防災意識を高める読本作りは有意義ですが、より有効に活用されるためにエリアやモデル展開などの工夫が必要です。それを踏まえ、冊子印刷費・冊子郵送費の一部を助成します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

この度は私たちの活動に対し助成を決定頂きありがとうございます。これまで世代を越えて防災を考える場づくりとして、防災トランプを使った教室を43回、講演や出張開催も入れたら約160回と地道に取り組んできました。1回1回参加者が体験した身のまわりの危険の話をきちんと頂いています。こうして集められた話は、本事業によって防災に関する心や考えを育む教材となり、地域の将来を担う子供たちが地域に参加するきっかけを産み出します。本をつくって終わりではなく、つくってからがこの事業の「始まり」となります。子どもたちが「地域」と「地域の人」に興味を持ち、実際に交流する場に参加し、防災に対する考えを話し、聞き、自身の生活に持ち帰り、また地域に目がいく。そんな循環を意識して災害につよいひとづくりに取り組みたいと思います。



みんなでトランプを楽しみ
防災について話す



話した内容は
「えほんばなし」にして
持ち帰る

NPO 法人楽竹会

理事長 奈良部 岩次

横浜市

助成金額
200,000 円

団体紹介

設立年月

2002年1月

団体の目的・活動内容

「現役時代に培った知識や経験を地域の自然環境保全・再生の実践活動に活かし、次世代に継承させながら第2の人生を謳歌する。

取り組んでいる活動の思い

短時間であっても能動的な活動を施設の中で実体験することにより、高齢化が進む地域社会にポジティブな話題を提供し暮らしの中に反映させることにより、人とひとがふれあい連携しながら心癒せるまちづくり・地域づくりの一端を担う生活習慣が醸成させることを願っています。

活動歴

毎月、定期的に訪問演奏を実施。
地域ケアプラザ、デイサービス、保育所等

①竹炭焼き専用窯場 ②竹チップ製造用シュレッター機材 ③駐車場 ④実験農場を確保して4つの事業に取り組んでいます。

- 1) 地域に点在する荒廃竹林の整備事業
(竹林の整備・竹炭焼き・竹酢液製造・竹工芸品製造・資源循環型都市農業の創造)
- 2) 創作「竹琴太鼓による高齢者施設訪問活動(心身機能活性化)
- 3) 小中高校学習支援事業
- 4) 協働事業(まちづくり)

団体情報

住所 横浜市瀬谷区宮沢3-16-6
TEL 045-302-3142
Mail wtywq227@jcom.home.ne.jp

助成した事業・活動

創作「竹琴太鼓」による高齢者施設訪問演奏事業

内容

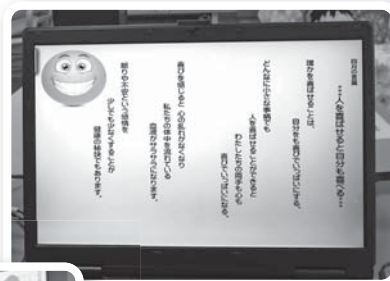
高齢者の地域貢献活動として、デイサービスなどの利用者の体調を小型生体センサーによる生体情報測定を行い、音楽が心に与える影響を調査し、科学的評価を得て活動のインセンティブに繋げる活動に、センサーレンタル料、解析及びレポート作成費用等を助成します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

わが国の65才以上の高齢者が、3296万人を超えて、4人に1人が65才以上の高齢者が住む社会になっている。

この地域社会を終の棲家になっている高齢者の日々の暮らしの中にポジティブ(能動的)な生活環境を提案したいとの思いを追い求めながら第二の人生を謳歌している。

具体的なスキルとして、①音楽療法 ②理学療法 ③バーリデーショニング療法等々のコラボレーションで現場の実践活動に挑戦する昨今です。



回想療法の一環・今月の言葉



施設の職員も一緒になって踊る



竹楽器を両手に持ち、叩きながら歌う

団体紹介

設立年月

1952年11月

団体の目的・活動内容

神奈川県内（横浜市・川崎市を除く）の母子・寡婦の福祉増進を推進するとともに、県内の母子等福祉団体（17団体）の連絡調整を図る。

取り組んでいる活動の思い

ひとり親家庭は、子育てをしながらの就労が非常に困難であり、安定した収入がないことから貧困の連鎖に追い込まれる状況にあります。この一因として保育施設の不足があります。この現状を打破するため母子連直営の保育園を開設しこの問題に取り組んでいきたいと思ひます。

活動歴

保育者16（内保育士である園長1名）
（保育士7名、補助員9名。うち常勤の保育士1名）
入園者の状況により保育者の勤務態勢は変動する。

団体情報

住所 藤沢市朝日町9-4
朝日ビル2階 203
TEL 0466-22-1035
Mail kbosi@kbosiren.com

❀ 助成した事業・活動

私設保育施設（一時保育・月極保育）「のびっこ園片瀬」新設事業

❀ 内容

長年シングルマザー支援を行ってきた団体が県の政策変更により事業を縮小することになり、一人親が子どもを預ける場所は充分ではない現状を課題として、制度だけに依拠せず母子連直営の保育園建設チャレンジを応援し工事・設備費の一部を助成します。

助成をうけて…の思い・メッセージ

湘南の真ん中に誕生した、のびっこ園片瀬。
園児の人数もだんだんと増えてきて、保育園らしくなってきました。ここから、のびのびとした子ども達が次々に巣立って行くはずです。

何よりも子ども達の安全が第一。生き活き市民基金をフルに活用して、より一層安全で安心な保育園を確立します。



NPO 法人たすけあいあさひ

代表者 牧野 洋子

横浜市

助成金額
299,000円

団体紹介

設立年月

1992年2月

団体の目的・活動内容

「困ったときはお互いさま」の気持ちを大切に「たすけあい」の心が通い合う街づくりをすすめます。高齢者も障害者も病人も、誰もが住み慣れた街で安心して暮らし続けられるように、必要な支援を市民参加で提供します。

●介護保険事業、障害者総合支援事業
任意の福祉サービス事業、移動サービス

取り組んでいる活動の思い

要介護者・障害者が階段昇降により外出する気力を失っている現況を調査し、ケア不足の改善、階段昇降のための安全な機器開発推進、地域包括ケア、在宅生活の推進を行うことにより地域の生活の質を向上させていきたい。

活動歴

横浜市内、昭和40年代築の大規模団地（エレベーターなしの中層棟）を抱えた地域2か所、その地域包括支援センター近く。

団体情報

住所 横浜市旭区四季美台28-1

TEL 045-306-0131

Mail info@tasukeaiasahi.or.jp

✿ 助成した事業・活動

エレベーターのない大規模団地の上下移動の支援

✿ 内容

要介護者・障がい者にとってエレベーター敷設の無い高層階の居住者の移動は、今後さらに顕著になる問題です。皆で共に考え課題をみえる化し、政策化するアドボカシー活動に繋ぐために、行政も巻き込んだワークショップやイベントの開催開催費用を支援します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

助成をいただき、ありがとうございます。早速に、会場をおさえました。イベント日時は、7月18日。手ごね、あさひ公会堂です。これから、このテーマに関わりあると思われる機関、事業所等に、趣旨説明、参加を呼び掛けていきます。実際に昇降の問題に取り組んでいる自治会にもよいお返事をいただいております。今後の活動へのご助言等、どうぞよろしくお願い致します。



団体紹介

設立年月

1997年8月

団体の目的・活動内容

横浜市緑区霧が丘地区とその周辺地域の住民とともに、お互い様の精神を基に、高齢、病気、障害、育児、その他生活支援が必要な時に助け合うことにより、安心・安全な地域づくりに貢献する。

取り組んでいる活動の思い

「お互いさまの精神」「心のこもった手助け」「暮らしやすい地域づくり」を基本にたすけあい活動や地域活動と、公的制度での在宅福祉サービス事業を行っていく事で、地域にたすけあいの輪と人の輪を広げていく。

活動歴

地域におけるたすけあい活動を目的に平成9年9月に地域の主婦が中心に立ち上げた「在宅福祉グループたすけあい・ゆりの木」を母体に発足、平成14年にNPO法人に衣替え、訪問介護と障害福祉サービスを事業化した。事業運営面では生活クラブからも貴重なノウハウを学んだ。活動を進めるうえで地域との繋がりを特に大切にし、地域公開講座や交流会の企画、自治会や行政との連携、小規模なサロン開催を行ってきた。

平成27年3月、新事務所への移転を契機に、地域の高齢者や障がい者の居場所づくりとして、新たにサロンの拡充を計画しており、このたびの助成金はサロン運営費の一部に活用する。

団体情報

住所 横浜市緑区霧が丘5-26-2-204

TEL 045-922-2021

Mail t-yurinoki@kjb.biglobe.ne.jp

主な事業

非収益事業 たすけあい活動

地域交流活動

収益事業 介護保険事業

障害福祉サービス事業

法人の構成

●理事6名、監事1名

●会員数180名(内活動者45名)

助成した事業・活動

新事務所移転に伴う交流サロンの拡充

内容

高齢化する地域の中で、住民が集えるサロンは重要であり、飲食は人をつなぐツールとして有効です。事務所移転・事業拡大は事業が回転するまでに伴うかなりの資金負担となるため、今後のサロン経営への支援としてIHクッキングヒーター、食器等の備品を助成します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

ただいま新しいサロンの内容を検討している最中ですが、貴重な福祉たすけあい基金の助成を頂くことになり感謝申し上げますとともに、今後のサロン運営に有効に活用させていただき所存です。

計画中の新しいサロンは、今まで行っている月1回のサロンに加え、新たにオープンな形式で「お楽しみカフェ（仮称）」を開催し、お話しや歌をうたったり、囲碁などを楽しんだりできるような地域の居場所を作り、地域の繋がりを広げていきたいと夢を膨らませているところです。



ゆりの木サロン（2010.6.11、旧事務所にて）
アクリルたわし作り*サロンは毎月1回開催。今後は新しいサロン展開として、「お楽しみカフェ」も企画中



ゆりの木交流会（2010.2.21、ピオラ三保ホールにて）
皆で歌うコーナー
*毎年楽しい交流会を開催

定期総会後の交流会
(2012.5.20、霧の里にて)
手話ダンスを披露
*定期総会の後にはいつも楽しい交流会を開催



NPO 法人 W.Co ケアびーくる

理事長 奥平 ます美 大和市

助成金額
280,000 円

団体紹介

設立年月

1998年5月

団体の目的・活動内容

移動困難者の移動を互助の精神で市民活動が担うことにより、高齢になっても障害があっても、住み慣れた地域で暮らし続けられる地域社会を実現するために設立。高齢者や障害者等一人で外出できない市民（登録制）に車を使用して介助付きの外出支援サービスを提供。

取り組んでいる活動の思い

設立当時、大和市が実施していた移送サービスは、2台車両に500人の登録者があり、2ヶ月前からの予約が必要、かつ通院目的に限定、土日や早朝夜間は利用不可など、使いにくいという声がありました。また、当時、福祉タクシーの営業所が市内に無く、少しの移動でも高額な料金が発生しました。参加型による地域福祉で、移動に制約がある人の移動を「家族のように」当事者の立場で支援したいという想いで開業。

活動歴

365日24時間（原則8時～午後8時）

受付業務は、転送電話で電話対応。

今までの利用者は1,260余名。

<2014年度実績>

利用者実数 234名

4,790回、6,170時間

団体情報

住所 大和市つきみ野4-5

つきみ野ビレジB2-205

TEL 046-274-8288

Mail yamato.wa1998@gmail.com

HP <http://care-vehicle.org/>

助成した事業・活動

移動制約者のための介助付き移動サービス事業

内容

長年非営利の移動サービスを行ってきた団体だが、車両の老朽化に伴う福祉車両更新の時期が近づき、3台の福祉車両が同時に車検を迎え財政を圧迫していることを踏まえ、制度から十分な支援がないことと移動サービスの必要性、自助努力をみて、車3台分の車検費用の一部を助成します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

とにかく嬉しいです。

貴重な基金を大切に活用させていただきます。

この基金に応募をすることにより、自分たちの活動の弱点や、改善点、これから取り組まなければならない課題などを、あらためて洗い出すことができたのも、成果でした。

次年度に向け、自分たちの活動・事業に誇りを持って、地域福祉の向上に寄与していきたいと思います。



団体紹介

設立年月

2003年3月

団体の目的・活動内容

小学校の子どもの育ちと子育て支援及び地域のつながりづくり。

取り組んでいる活動の思い

横須賀市で学童保育の条例が定められ面積要件が決まり、現在の場所では5年以内に定員37名に減らさなくてはならない。その反面、久里浜地区では子どもの数が多く、保育園も不足しこのままでは待機児童が増えてしまう。そのため、新規学童保育所を設立し働く保護者を安心させ、児童の放課後の生活を支援していきたい。

活動歴

ワーカーズ・コレクティブゴジママとして「学童クラブゴジラのしっぽ」と共に「学童クラブゴジらんど」を運営
ワーカー数（運営及び指導員兼務）7名
フルタイム1名パート数3名

団体情報

住所 学童クラブゴジラのしっぽ
横須賀市久里浜6-6-1
久里浜小学校北校舎1階
TEL 046-835-1230
Mail w.co-gojimama@world.ocn.ne.jp
住所 学童クラブゴジらんど
横須賀市久里浜5-11-5
カーム壱番館2階
TEL 046-897-3175
Mail gakudou-gojiland@kanagawa.zaq.jp

❀ 助成した事業・活動

新規学童保育所設立に伴う整備事業

❀ 内容

今現在、入っている小学校にはもう余裕教室がなく、同じ小学校に通うことになる児童が学童に入りたくても入れないという事を避けるための新規学童保育所の設立にむけて保育士の人件費、社会保障費の一部を助成します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

2014年12月に開催した説明会では、20数名が入れない事態となることが判明。熱い思いを持った保護者との出会いがあり、そこから新学童を作ることに動き出しました。古いエアコンを取り換える作業は、3/31夜の7時半に何とか終了。連日帰りは夜の10時という日が続きましたが、オープンの日4月1日は朝7時半から、新1年生25名と2年生2名、総勢27名の新入会生を迎え入れることができました。新1年生が25名というのは、今までで最高的人数、しかも指導員不足の状態で大変な日々でした。最近はいよいよ子どもたちも慣れてきましたが、一番大変な夏休みに向かって、助成の決定通知は大変励みになります。ありがとうございました。



学童クラブゴジらんど
部屋内 キーボードや机、
ステンレス棚などは、保護
者からの寄付

ボランティアの内田さん（後方
右側）は、みんなの人気者



5月のお誕生日会で、
誕生日とプレゼンター
の子どもたち

NPO 法人ふじさわ団塊塾

理事長 手塚 智之

藤沢市

助成金額
170,000円

団体紹介

設立年月

2005年4月設立
2008年4月活動開始
2012年法人化

団体の目的・活動内容

藤沢市を中心とした地域社会に対して、団塊世代及びその前後世代を活性化し、社会貢献活動への参加を促進する事業を行うことで、地域で共に助け合い生きがいのある社会の実現に寄与することを目的とし特定非営利活動として①保険、医療又は福祉の増進を図る活動②まちづくりの推進を図る活動③職業能力の開発または雇用機会の拡充を支援する活動を行う。

取り組んでいる活動の思い

「人生を幸せに生きるために楽しみはできるだけ長く」とのことで自分が栽培する楽しみと栽培したそばを打ってみて楽しむことで生きがいを感じてもらい、細く長く長生きして頂きたい。

活動歴

月一回の基本講座開催。
週に一回の各種講座開催

団体情報

住所 藤沢市本藤沢 1-5-11
TEL 080-5047-7908
Mail tezukat360@jcom.home.ne.jp

❀ 助成した事業・活動

いきててよかった、出前講座で生きがいを

❀ 内容

超高齢社会にあって、元気な高齢者がそば打ち技術取得講座を行い、技術を取得した方が高齢者福祉施設を中心に出前講座を行い、「100歳そばで高齢者に生きがいをもってもらう」仕組みを作る活動に対し、出前講座のための備品費を支援します。

❀ 助成対象

出前講座のための備品費

助成を受けて…の思い・メッセージ

多くの高齢者にどうやって元気になっていただくか、法人設立以来悩んできました。元気がない高齢者A群を元気がある高齢者B群が支援するか協力体制確立のためにBの有志に「そば育成・そば打ち技術取得講座」などを開設、修了者に元気支援アドバイザーを委嘱する見守る若い力Cの協力で、地域にABCサイクルが回り始めようとしています。この時期に支援が決まり、気合が入りました。高齢者が元気になることは何にもまして続く人々の励みになります。感謝しています。

① 定例会議作戦を練る



③ 葉が出て密集間引きの状況



⑤ そばを打ちゆでる



② 種を購入100歳そば袋入れ



④ 種から苗に成長させる



⑥ 外部へ繰り出す



団体紹介

設立年月

2004年2月

団体の目的・活動内容

乳幼児及び青少年とその親に対して、安心して過ごせる居場所を提供すること、親と子を支える新しい地域コミュニティの構築・推進に関する事業を行い、地域の子育て子育て支援全般の向上と子どものかかわる活動団体のネットワークづくり。

取り組んでいる活動の思い

大和市民で乳幼児連れの子育て親子が利用しやすい居場所で、子育て当事者による居場所作りの活動支援という位置づけのもとに、当事者がサロンを運営していけるように、今後も引き続き参加者との関係性をつくりながら、サロン開催を続けていきたい。

活動歴

横浜市瀬谷区にある「NPO 法人 まんま」のひろばスタッフ2名を配置し、交流の場の提供や子育て情報の提供、子育て相談に対応。

団体情報

住所 横浜市瀬谷区瀬谷4-7-19

TEL 045-303-5393

Mail manmanchi@r9.dion.ne.jp

✿ 助成した事業・活動

Baby サロンまんま@大和の運営

✿ 内容

大和市での子育て支援の出張ひろばの背景や意義を踏まえ、ニーズから立ち上げた事業として応援します。さまざまな交通手段を使ってアクセスする親子の為には、駅に近い会場で実施することが必要ですが、会場費の負担が大きく、今後の当事者運営の課題です。今回は立ち上げとして会場費の一部を助成します。

助成をうけて…の思い・メッセージ

今回の助成の決定を受けまして、大和サロン開催を心おきなく続けていけることになり、感謝致します。今まで通り子育て親子が利用しやすい居場所であることに加え、参加者との関係性をつくりながらサロン開催を続け当事者活動につなげていきたいと思ひます。また、早急に大和市役所など行政との連携をはかり専門的な相談にも対応でき、幅広い子育て支援が実現されるようにと思ひます。この度はほんとうにありがとうございました。



1才半～2才くらいの月齢の日は、ボールやトンネルで部屋いっぱいに使って遊びます。ママも移動しながら子どもと遊んだり他のママと話をしたりします。



0才～1才半くらいの月齢の日は、のんびりおしゃべりTime。絵本の読み聞かせが好評です。

NPO 法人ドリームエナジープロジェクト

藤沢市

助成金額
510,000円

理事長 内海 智子

団体紹介

設立年月

2013年7月(2015年3月NPO認証)

団体の目的・活動内容

知的・発達障がい児者の社会参加を支援し、障がい者への理解を深める事業を行い、障がいのあるなしを超えて、共に生きる社会の実現を目指します。

取り組んでいる活動の思い

私たちは、知的・発達障がいのある子たちの可能性を伸ばしたいと考えています。そのユニークな感性を伸ばし、社会の一員として生きていくための学びと体験の場をつくっています。

また世の中が障がい児に対し偏見や差別をなくし、彼らをもっと受け入れてくれるようになってほしいと、彼らの魅力を伝える啓発活動を行っています。

知的障がい児といっしょにしていると、癒されたりこちらもうれしい気持ちになれたりすることが多くあります。

障がいがあっても笑顔で暮らせるように、そして障がい児に優しい社会は、きっと誰にとっても住みやすい社会となると信じて活動しています。

活動歴

過去4回インクルージョンライブを開催

2012年10月6日 集客40人

2013年3月30日 集客47人

2013年8月30日 集客41人

2014年3月1日 集客50人

団体情報

住所 藤沢市本藤沢5-5 B-302

TEL 0466-83-1173

Mail adm@dre-pro.net

助成した事業・活動

「インクルージョンライブ～21番目の特別な出会い～」

内容

イベント開催を通じて、ダウン症等知的障がいのある子の元気で輝いている姿をたくさんの人たちにしてもらい、障害を持った人の社会参加促進事業で重要度の高い、しかもユニークな活動と考えます。著名人(常盤貴子さん)の参加で、当事者のエンパワメントやB型事業所のPRの機会としても活かせるように、戦略を持って取り組んでもらいたいと考え、会場費、交通費の一部を助成します。

助成をうけて…の思い・メッセージ

4月から始まったNHK朝の連続テレビ小説「まれ」で、主人公のお母さん役を好演されている常盤貴子さん。実は、8年前、映画「筆子・その愛～天使のピアノ～」で、明治時代、日本で初めての障がい者施設を作った石井亮一の妻で、障がい児教育に一生を捧げた筆子役を演じ、大勢の知的障がい児と共演しています。今回の助成をいただき、時の人となっている常盤さんをお呼びしてのイベントを開催できるとは夢のようです。

ぜひ常盤さんと障がい児との意外な接点や障がいに対する熱い思いをお話いただきたい。そして、たくさんのお客様に、ダウン症や知的障がいのある子たちの輝く姿を見ていただきたいと思っています。



写真のレッスンでは、思わぬ視点でシャッターを切ることがあります。



美術のレッスンでは、自由な発想で作品をつくります。



インクルージョンライブでは、ダウン症児が歌ったり、ピアノ演奏をしたりしています。

団体紹介

設立年月

2003年8月10日

会員数 104団体 (2015年5月末現在)

団体の目的・活動内容

移動することを基本的人権ととらえ、障害者や高齢者等あらゆる移動困難者とその移動を支援する非営利移動サービス市民活動団体を対象に、団体等が連携して共に育ちあうことを推進する事業を行うとともに「移動の自由」を拡大するための調査や研究、提案活動を行うことにより、行政や公共交通機関等と協働して福祉のまちづくりをすすめることを目的とする。

取り組んでいる活動の思い

生活支援サービスの「移動支援」の早期実現を目指す。特に新たな外出支援ボランティアの人材育成や団体の設立支援、研修などにつなげ、担い手の確保にも務めていく。また、今後も中間支援組織としてNPO団体や住民ボランティアによる送迎サービスの拡充を支援し、移動困難な方々への移動サービス情報の提供や相談事業を進めていきたい。

活動歴

利用者の利便を拡大するための利用相談窓口（ニーズに沿ったサービスの紹介）、高齢や障がいにより、外出が困難な方々を支援するための運転ボランティア育成やリーダー育成のための研修事業、移動サービスNPOの設立相談、制度に基づく団体の登録申請・更新手続や、運行に関する諸課題に対応するための相談事業を実施。また、交通不便地域に住む住民が主体的に地域交通づくりに取り組む際の住民合意を高めるための住民集会・試運行など本格運行に向けての支援。政策提言、セミナー開催事業等。

団体情報

住所 横浜市港北区新横浜 1-16-2

SEエトワール602

TEL 045-534-6718

Mail

kanagawa-idounet@b04.itscom.net

助成した事業・活動

外出支援サービスの拡充に向けた、地域包括ケア・生活支援サービスの訪問型サービスDを推進するための学習会、シンポジウムの開催事業

内容

介護保険改正に伴い、新たに創設された生活支援サービスの移動支援を推進し、NPO等、住民、市町村が連携して、日常生活や社会参加に必要な外出に不自由をしている県民のくらしの足を確保に向け、新しい総合事業と外出支援の役割と意義について学習し、推進するための具体策につなぐ活動の、学習会、シンポジウムを開催するための人件費、広報費、会場費の一部を支援します。

助成をうけて…の思い・メッセージ

高齢化社会において、在宅生活を支えるための住民参加による生活支援サービスの充実が緊急の課題です。

移動に制約のある方々のくらしの足をどのように確保していくのか、住民と行政、NPO等が知恵を出し合い、生活の中の「移動」の支援施策の拡充に向け取り組んでまいります。



国交省認定運転者講習会での
移乗介助研修



大和市の住民による
「のりあい」バス

NPO 法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ

横浜市

助成金額
513,000円

理事長 青島 美千代

団体紹介

設立年月

2008年5月(任意団体としてスタート)

2014年5月(NPO法人として再スタート)

団体の目的・活動内容

学校や家庭・地域の中に居場所を見いだせない子どもや若者たちが、安心して過ごせる居場所、学校外の出会いと学びの場を共に作り、人とつながりながら、自分らしく生きていける環境を模索し、この実現に寄与することを目的とします。

取り組んでいる活動の思い

子どもをとりまく状況は、日々厳しくなっています。不登校の子どもたちが、安心して、自分らしくいられる場所、やりたいことのできる場所、人とつながれる場所を大切に取り組んでいます。また、フリースペースでの企画は、毎月子どもたちとやりたいことを相談しながら決めていきます。

今後は、地域の中で、子どもの問題を取りくめるつながりをより広げ、子どもに関わる人たちに、不登校の子どもや親たちへ関わり方への理解をもっと広げていきたいと考えています。また、お互いの交流をよりすすめ、子どもの問題を共に考えていける地域の活動を作りたいと思います。

活動歴

運営スタッフ3名、他、ボランティアで対応。

子ども達の学習活動、教室、大人むけ学習会には講師が対応する場合もあります。

団体情報

住所 横浜市鶴見区佃野町 1-7-202

深谷ビル

TEL 045-834-7970

Mail info@freespace-tanpopo.com

❀ 助成した事業・活動

不登校の子どもや親たちの学習・相談交流室の開設事業

❀ 内容

不登校の子どもたち・親たちの居場所を兼ねた学習支援の重要度は極めて高く、実績に基づき、相談環境や学習環境の拡充を応援します。人件費は恒常的に係る経費であり自前で確保することが望ましい費用ですが、今回は今後の継続性もみて人件費を支援します。

助成を受けて…の思い・メッセージ

今まで、ひと部屋の中で、静かに学習する時間がなかなか持てなかったり、相談に来る方がいても、子どもたちが騒がしい中で、お話を聞かなくてはならなかったりしたので、その場所が、確保できることがとてもうれしいです。

子どもたちの学習の時間が保障されることで、ひとりひとりの状況に合わせて、個別学習を行うことができます。

丁寧に関われることで、子ども達が自信をつけていけると思います。また、親たちも小さなグループで、学習や、交流会を持つ企画を増やすことができます。

皆さんからの、大切なお金が、十分に生かされるよう努力したいと思います。ありがとうございます。



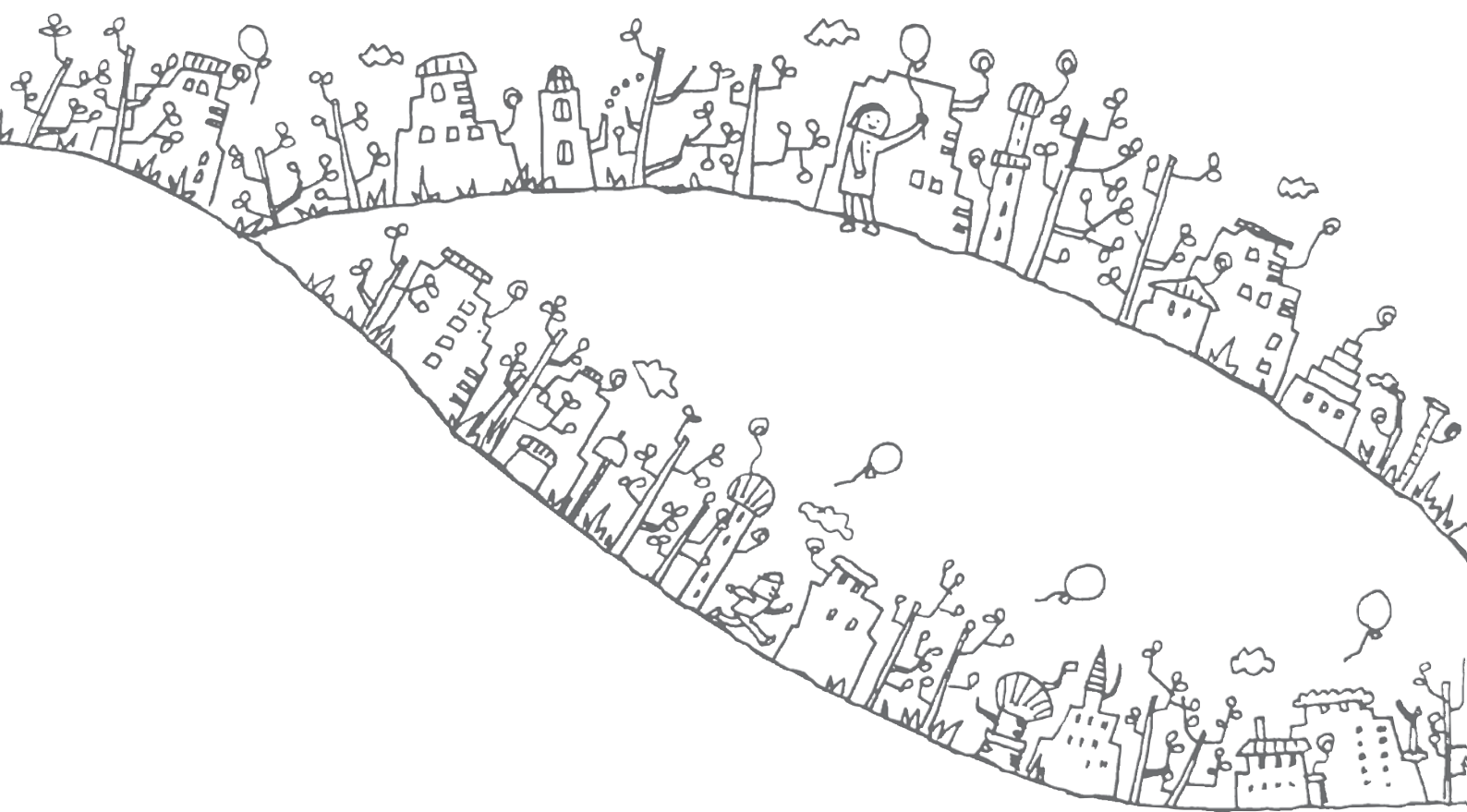
書道教室 書道は、スポーツ。身体全体を使い、思いを込めて、筆を運びます。自分の好きな字を選んで書いたり、年賀状を作ったりしています。



工作教室 革の財布、石膏で作る自分の手、ステンドグラスなど、教えていただいています。創造力、そして、道具や手先を使って、作品を作っています。



相談交流会 毎月1回、夜、親たちの相談会を開催しています。子どもの事で、困っていること、家庭のこと、学校のこと、その交流の場が、親たちのつながる場であり、居場所です。



発行：公益財団法人 かながわ生き生き市民基金

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6F

Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045

Mail: info@lively-citizens-fund.org

URL: <http://www.lively-citizens-fund.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/livelycitizensfund>

発行日／2015年6月5日